

新学制で3年間で勝負する時代に

第9期 赤根 惇

昭和25年4月、私達9期生は胸をはずませ新制高校最初の入学生として、桜満開の都立千歳高校の門をくぐる。2年生の8期生以上は旧制中学からの持ち上りで男子校。9期から男女共学かつ3年間の高校生活となる。戦時中、軍事教練で名を響かせたという本校は、女生徒50名の入学があったとは言え、質実剛健の気風に満ち、校技とまで言われたラグビーはその土壌のうえに全国大会関東代表の座をかち取った輝かしい伝統をすでに築いていた。

最初に入部した山田常男は語る。「昭和23年、新制中学2年生でラグビーを知り、25年に千歳高校に入学しラグビー部に入部した時期が、千歳ラグビーの全盛期であったことを卒業後に知った。そして明大ラグビーを卒業し、ラグビーによって我が人生が形成されている今日の喜びは、計り知れないものがある。加えて本校の第30回全国大会出場では、1年生で試合出場こそなかったが花園に行けたと言う事実、今61才を数えても尚、その感動は残っている。千歳ラグビーよ!再び「夢」を実現して欲しい」。

山田に続き本田勝久、そして秋には赤根惇、吉野哲郎が入部し留年の新井三男と浅谷勲司、雑色勝重、小林明男、尾形政彦が加わり少数乍ら軸となる。

[校舎火災と生徒会予算]

昭和27年2月17日午後8時10分、101番教室付近より出火。会議室、職員室等16室、他2棟400坪を焼き、9時20分鎮火。そのためラグビー部試合用のジャージ、ストッキング、ボールも焼失。早速に宿敵だった高崎高校からラグビー部宛にお見舞が届く。新年度に入り、27年度の予算が成立し、運動部予算32万円(12班)のうちラ

グビー班は、筆頭額の5万6千円が配分(第2位は野球部3万5千円)された。

[ラグビー班の現状と国体予選]

(昭和27年6月5日付 千歳新聞)

昨年、ついに関東選手権をはばまれ今年こそその意気に燃え、連日激しい練習を行っている。本年度レギュラー10名を送り現在赤根主将以下、新鋭石塚、安部、貴島等二十数名が続き、本校の表看板に恥じない活躍をしている。OBの熱意あるコーチによりたたきあげられ、全国大会への期待は大きい。

国体ラグビー東京予選は5月18日八幡山において開催された。大量の卒業生を送り、新人で固めたラグビー一部は、健斗よく緒戦に法政一商に快勝したが、25日城北の一戦に惜敗した。

千歳 13 $\left(\begin{array}{c} 3-0 \\ 10-0 \end{array} \right)$ 0 法政一商

(評) 半数以上の新人が出場した為、ペナルティが多く、またチームのまとまりに乏しかった。特にFWが非力でボールの大半を敵にとられていた。しかしバックスの活躍が目立ち、伝統の強みと斗志、鋭いタックルで法政を一蹴した。

千歳 3 $\left(\begin{array}{c} 0-0 \\ 3-6 \end{array} \right)$ 6 城北高

本	伊	安	浅	吉	斎	赤	松	菅	貴	雑	新	石	遠	山
田	集	院	部	谷	田	木	根	下	井	島	色	井	塚	藤
FW				HB			TB		FB					

[国立高に圧勝 個人技に優れた千歳の勝利]

(昭和27年11月1日付 千歳新聞)

10月8日、本校校庭で国立高校とラグビー試合が行われた。暫く対外試合から遠ざかっていた本校は都下第3位を誇る国立高を軽く破りラグビーファンを喜ばせた。この試合、千歳は前半7分山田のPG成功に先取点をあげ、更に前半2ゴール、後半1トライを加えて快勝した。劣勢を伝えられながらFWは、よく健斗して6分の球を獲得したが、TBラインの拙攻で幾多のチャンスを逸していた。結局、個人技に優れた千歳の勝利となった。

千歳高 16 $\left(\begin{matrix} 13-0 \\ 3-0 \end{matrix} \right)$ 0 国立高

津伊安小吉斎本伊	菅山	遠石赤貴	島
曲院部林田木田藤	井田	藤塚根島	崎
FW		HB	TB FB

[試合用ジャージを新調]

10月12日、恒例の運動会で、各運動部によるスポーツショウが行われ、わがラグビー部は、新調したジャージ、ストッキングに身を固め、ニューボールで颯爽とゆさぶりプレー(ドンドン)を披露し好評を博した。新しいジャージは明大の白色と早大のエンジ色を取り入れた縞模様。

[合宿費づくりのアルバイト](新井三男)

最上級生の当時、特に思い出深い出来事は、合宿費づくりの為に過酷なアルバイトであった。少年時代に戦争の厳しい時代を経験した私達は、自立心旺盛で合宿費は自分達の力でつくり出そうと決意し、和泉多摩川の河原で、玉石集めのアルバイトをしたが、これが意外に大変な重労働だった。石がゴロゴロした足場の悪い河原で、重い玉石を入れたカゴを天びん棒でかつぎ運ぶのだが、天びん棒が肩に喰い込むうえ、バ

ランスをとらねばならず、全く泣きたくなくなるようなきつい作業であった。しかしこの苦しい作業を皆んなで協力してやりとげた時の充実感はその後のチームワークづくりに、大いに役立ったように思うし、貴重な体験、なつかしい思い出。

[全国大会予選で城北高に敗れる](千歳新聞)

1回戦 昭和27年11月9日 於八幡山

千歳高 14 — 0 法政二高

2回戦 昭和27年11月16日 於八幡山

千歳高 41 $\left(\begin{matrix} 21-0 \\ 20-0 \end{matrix} \right)$ 0 千葉三高

3回戦 昭和27年11月23日 於八幡山

千歳高 0 $\left(\begin{matrix} 0-0 \\ 0-6 \end{matrix} \right)$ 6 城北高

(評) 昨年度の全国大会予選では、関東の部で決勝まで進み、高崎に惜敗した本校は、今年こそ全国制覇の意気込みで大会に臨み、第2回戦において、千葉県の雄といわれる千葉三高とあたった。この試合、前半4分にRW新井の右隅トライに始まり、終始千葉を圧倒し、前後半を通じて、敵側が千歳陣内に攻め込んだのは、僅かに数回きりという有様で一方的な試合だった。

第3回戦の城北戦ではFWの力の差がものをいって、本校は始めから押され気味だった。前半はボックスの巧みなタックルで、相手を押さえたが、後半になると、相手の強力なFWの押しからTBに球がわたり、トライをあげた。千歳も僅かな回数ながら、相手ゴール前まで押して行きながら、パスの悪さや、何かで得点にならなかった。また相手は16分、本校の石塚がゴールライン前で上げたパントが胸に当たって、それを押さえこむという幸運さも手伝って、合計2トライをあげ本校を押し切った。

(千歳新聞)

（ 第 9 期
同期生からのことば ）

三年次直前の校舎火災で対外試合の自粛。加えて有力部員の退部で試練の一年。でも逆境に一層結集し、団結、伝統を守る。感謝。

赤根惇

まだ経済的にも発展途上の日本において、千歳でラグビーをやったお陰で現在の私があると信じています。有難う。

浅谷勲司

高3の時、運動会の直前に足首を捻挫し、当日のデモンストレーションに参加できなかったことを今でも残念に思っている。

新井三男

部存続の危機と赤根君より勧誘あり。「義を見てせざるは勇なきなり」と入部。短期間であるが代打役を果たせた事を誇りに思う。

雑色勝重

明大ラグビー、社会人ラグビーと今でも続けているラグビーだが、半世紀の節目に千歳ラグビーよ甦って欲しい。

山田常男

“ブラジルで生活しているが、いつも心にあるのは千歳のラグビー。これを支えとして異国での暮らしに耐えて来た。VIVA千歳。”

本田勝久